令和6年度　課題研究Ⅰ（文系）　課題研究ルーブリック

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th></tr>
<tr><td>活　動</td><td>□論文作成の過程において、積極的に取り組み、グループでよく議論しながら協力して進めることができた。</td><td>□論文作成の過程において、グループで議論しながら進めることができた。</td><td>□論文作成の過程において、必要な議論が不足し、活発に研究に取り組めていない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究課題の学術的意義

【序論】</td><td>□研究課題の学術的意義注1を述べており，社会に対する意義と学問分野に対する意義の２つを十分に満たしている。</td><td>□研究課題の学術的意義を述べているが，社会に対する意義か，学問分野に対する意義のいずれかが不十分である。</td><td>□研究の学術的意義が述べられておらず，自分たちの興味関心等の研究の動機のみの提示に留まっている。</td></tr>
<tr><td colspan="3">注１：研究課題の学術的意義は、社会に対する意義と、学問分野に対する意義の２つを満たす必要がある。

社会……研究課題が（ＳＤＧｓ等のように）その解決を社会の多くの人が望んでいる。

学問分野…研究課題が先行研究や先行事例で未だ解決されていない独創的な課題である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究デザイン

【序　論】</td><td>□適切な研究デザイン注2の３要素（備考の❶～❸）を全て適切に満たしている。</td><td>□適切な研究デザインの３要素のうち１つが適切でない。</td><td>□適切な研究デザインの３要素のうち２つ、または３つが適切でない。</td></tr>
<tr><td colspan="3">注２：適切な研究デザインをするには、次の３要素を満たす必要がある。
❶ 研究課題の提示とその解決のための適切な仮説設定
❷ 仮説検証のための適切な調査・研究や実践
❸ 実践の有効性を評価するための適切な手段の選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研究方法

【本　論】</td><td>□定量的なアプローチ注3で研究が進められており，結果がグラフ等の適切な形式で示されている。さらに，統計量として，中央値・標準誤差・標準偏差等の平均値以外の数値も用いられている。</td><td>□定量的なアプローチで研究が進められており、結果がグラフ等の適切な形式で示されている。統計量としては平均値のみ用いられている。</td><td>□定性的なアプローチ注4の研究に留まっている。</td></tr>
<tr><td colspan="3">注３：定量的なアプローチ…結果が数値で得られるような調査や研究で定性的な研究に比べ客観性が高い。
注４：定性的なアプローチ…結果が数値ではなく，文章や記号，段階等で得られるような調査や研究あり，定量的な研究に比べ研究者の主観が入りやすい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">考察

【終　論】</td><td>□仮説に対する答えとして適切な結論注5が提示されており，仮説の検証に至るまでの論理が適切である。また，仮説を検証するために必要十分な根拠が過不足なく示されている。</td><td>□仮説に対する答えとして結論が提示されており，仮説の検証に至るまでの論理が適切である。ただし，仮説を検証するために必要十分な根拠が過不足なく示されていない。</td><td>□仮説に対する答えとして結論が提示されているものの，仮説の検証に至るまでの論理に飛躍がある。</td></tr>
<tr><td colspan="3">注５：適切な結論…仮説に対する答えは，必ずしも仮説の通りである必要はない。むしろ，調査・研究の結果として，仮説とは異なる結果が生じる場合もしばしばある。そのような場合は，必ずしも「研究の失敗」ではなく，その原因を考察することによって適切な結論（「仮説とは異なる結果が生じた理由は・・・にあると考えられる。」）を導くことが重要である。</td></tr>
</table>